協会が推進する、床を守るメンテナンス

体育館の木の床を、安全に。

学校・スポーツ施設の担当者と利用者のための

やさしいメンテナンスガイド



説明用イメージ（AI生成）

01 定期的な塗装

床を守る塗膜を維持する

02 日々の清掃・点検

汚れと異常を見逃さない

03 異常時は使用中止

記録し、専門業者に相談

協会が最も重視するのは、定期的な塗装です。

全国フローリング技能協会は、木製スポーツフロアの維持管理において、ポリウレタン樹脂塗料の定期的な重ね塗りを最も重要な手法と位置づけ、推進します。

２～３年を目安に、床の状態を診断して塗り重ねを。

清掃・点検・必要な補修と組み合わせて取り組みます。具体的な進め方は６ページへ。本ガイドは塗装された木製の体育館床を対象とします。

01 毎日の清掃

基本は「乾拭き」です。

利用前後のひと手間が、床を傷める砂やほこりを取り除きます。



説明用イメージ（AI生成）

専用の乾いたモップで

体育館専用の清潔なモップを使います。水や油分を持ち込まないよう、ほかの場所の清掃用具と兼用しないでください。

1 床と道具を確認する

ささくれ・割れ・濡れを確認し、モップの砂や異物を取り除きます。危険な傷を見つけたら清掃を止め、管理責任者に伝えます。

2 板の長い方向に、順番に清掃する

拭き残しがないよう区画を決めて進みます。集めた砂やほこりは、床を傷つけない道具や掃除機で取り除きます。

3 汗やこぼれた水は、すぐ吸い取る

乾いた布で吸い取り、濡れ・べたつき・すべりが残る間は使わせません。落ちない汚れは、床に適合する方法を専門業者に確認します。

しないこと：水拭き・水洗い・ワックス掛け

水分は木の膨張や反りの原因に。ワックスはすべり方や再塗装に影響します。化学モップ・家庭用洗剤・シンナーも、自己判断では使わないでください。

02 傷めない使い方

砂・水・重い物から守る。

行事や大会の前後は、床の保護と状態の確認を忘れずに。



説明用イメージ（AI生成）

保護してから使う

机や椅子には脚の保護材を。行事で使う保護シートは、床に合ったものを選び、砂や水を下に閉じ込めないようにします。

1 入口で、砂や水を持ち込ませない

室内用シューズに履き替え、入口のマットを清潔で乾いた状態に保ちます。雨の吹き込みや、水回りからの水分にも注意します。

2 器具を引きずらず、重い物は事前相談

ピアノや移動式ゴールは、重量・車輪・経路を伝え、保護方法を確認します。薄いシートだけでは荷重を十分に分散できない場合があります。

3 撤去後にも、床を確認する

傷・湿り・汚れを確認します。湿りや結露が続く場合は、漏水・室内環境・床下の湿気などの原因を専門業者に調べてもらいます。

ラインテープは、専用品をゆっくりはがす

ガムテープは使わず、床と塗装に適合するものを選びます。床面に沿うよう折り返してゆっくりはがし、長期間放置しません。塗装直後の使用時期は施工業者に確認します。

03 床を見るポイント

「いつもと違う」を見逃さない。

清掃だけで終わらず、使う前に床の状態を確認します。



説明用イメージ（AI生成）

小さな傷にも注意

担当範囲を決め、床に近い位置からゆっくり確認します。ささくれを素手でなぞらず、危険な箇所には触れないでください。

表面の傷	ささくれ、小さな割れ、欠け、めくれ。過去に補修した場所も確認。
板のつなぎ目	反り、浮き、段差、隙間の変化。木栓（ねじを隠す木の栓）の抜け。
金具・器具	床金具のふたやねじの突出、がたつき、支柱のぐらつき。
濡れ・すべり	水分、べたつき、普段と違うすべり、きしみ音、沈み込み。

引っ掛かりを感じたら、止めて確認

柔らかい布を付けたモップなどで、板の長い方向に両側から確認する方法もあります。引っ掛かったら止めます。危険を試すために走る・滑る・跳ぶことは避けてください。

04 異常を見つけたら

止める → 記録する → 相談する

ささくれ・割れ・突出・大きな段差は、放置しないでください。



説明用イメージ（AI生成）

まず、危険箇所を区切る

人を近づけず、使用を止めます。競技中に入り込むおそれがある場合や、危険の範囲が不明な場合は、体育館全体の使用中止を判断します。

1 位置と状態を記録し、管理者へ報告

全体と近くから写真を撮り、入口やコートラインからの位置、発見時刻を残します。応急措置をした場合はその内容も記録します。

2 専門業者へ、状況を伝えて相談

施設名、写真、使用中止の範囲、床材・塗装の情報、補修歴を伝えます。水漏れや重い物の搬入など、直前の出来事も知らせます。

3 対応後の安全を確認してから再開

専門業者に補修方法と安全確認を依頼します。補修・確認内容を記録し、施設の管理責任者が利用再開を判断します。

テープを貼っただけでは、補修完了ではありません

応急措置の材料や方法も専門業者に確認します。テープで隠して使い続けたり、自己判断で削る・釘を打つ・接着剤を流し込むことは避けてください。

05 協会が最も重視する維持管理

定期的な塗装で、木の床を守る。

ポリウレタン樹脂塗装を、施設の維持管理計画の中心に。



説明用イメージ（AI生成）

塗膜は、木を守る層

塗膜は使ううちにすり減ります。状態に合った塗り重ねで保護機能を維持し、床板の劣化を抑えることが重要です。

２～３年を目安に、診断と重ね塗りを

文部科学省の手引きでは、床板の状態に応じた２～３年での重ね塗りを重視しています。利用状況・環境・専門業者の診断結果から、実施時期と方法を決めます。

進め方は「診断 → 計画 → 施工 → 記録」

床板・塗膜・塗料の相性を確認し、予算と休館期間を確保します。必要な補修や下地処理を行って塗装し、工事日・塗料・次回の点検予定を記録します。

ワックス掛けでは、代わりになりません

ワックスが残っていると重ね塗りできない場合があります。使用歴を伝え、専門業者に処理方法を確認してください。

割れやささくれは、２～３年を待たずに対応します。塗るだけで直るとは限りません。使用を止め、必要な補修・改修を相談し、塗装後も清掃・点検を続けます。

文部科学省「体育館の床板の剥離による事故防止について」p.7参照

コピーして使える / 施設独自の項目を追加できます

利用前の床チェック・記録シート

目視と清掃時の確認に使用する簡易様式です。専門業者の診断に代わるものではありません。

施設名：＿＿＿＿＿＿＿＿　点検者：＿＿＿＿＿＿

点検日時：＿＿＿年＿＿月＿＿日＿＿時　天候：＿＿＿＿＿



確認項目	異常なし	異常あり
砂・ほこり・異物・濡れ・べたつき	☐	☐
ささくれ・割れ・欠け・めくれ	☐	☐
反り・浮き・段差・隙間の変化	☐	☐
木栓の浮き・抜け、ねじの突出	☐	☐
床金具のふたの浮き・がたつき	☐	☐
普段と違うすべり・きしみ・沈み込み	☐	☐

※確認できなかった項目は空欄にせず、下の記録欄に理由を書いてください。

異常の場所・状態／未確認の項目：

対応（使用中止の範囲など）・連絡先・連絡時刻：

再開前の確認内容・確認者・再開日時：

協会から施設の皆さまへ

塗装・清掃・点検を、計画的に。

一般社団法人全国フローリング技能協会



説明用イメージ（AI生成）

定期的な塗装を、施設の計画に。

全国フローリング技能協会は、ポリウレタン樹脂塗料の定期的な重ね塗りを、木製スポーツフロアの維持管理で最も重要な手法と位置づけ、推進します。

利用前後の清掃・点検、数か月ごとの特別清掃、年２回以上を目安とする管理者の定期点検も計画しましょう。塗装・補修歴を残し、委託先とも手入れの方法や異常時の連絡先を共有してください。

関連する公的資料

文部科学省『体育館の床板の剥離による事故防止について
－子供たちを守るために－』（令和7年5月）
p.7「５.ササクレによる事故防止について」

文部科学省の掲載ページを開く

掲載画像は説明用に作成したAI生成イメージです。実際の施設・施工事例の写真ではありません。